

安全データシート

作成：2007年10月04日

改訂：2024年05月14日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ウィードコート500 主剤 ホワイト
整理番号	UGF24-A0099-4A
推奨用途及び使用上の制限	エラストマー用原料
会社名	ウレタン技研工業株式会社
住所	三重県四日市市天カ須賀新町1-23
連絡先	電話番号 059(365)-7125 FAX番号：059(365)-6265 緊急連絡先 会社住所、電話番号に同じ

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
発がん性	区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分に該当しない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1

上記で記載がない危険有害性は分類できない。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	発がんのおそれの疑い 長期にわたる、又は反復ばく露による肺の障害
安全対策	使用前に取扱説明書を入手し全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は手を良く洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
応急措置	ばく露またはその懸念がある場合は、医学的助言を求めると。 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
保管	換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 容器を密閉しておくこと。
廃棄	内容物/容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名	ポリオール溶液

	含有量 (Wt%)	官報公示整理番号 (化審法)	CAS No.
ホ ^ル リ ^フ タジ ^ェ ル ^ホ リ ^オ ール	20～30	6-722	69102-90-5
ヒ ^シ 油 ^系 ホ ^リ オ ^{ール}	20～30	—	—
芳香 ^族 ホ ^リ オ ^{ール}	3～5	7-763	3077-13-2
合成 ^セ ラ ^{イト}	1～5	—	1318-02-1
炭 ^酸 カル ^シ ウム	45～50	—	471-34-1
酸 ^化 チ ^タ ン	1未満	1-558	13463-67-7
その他合計	1～5	—	—

4. 応急措置

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。
眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> 口を良くすすぐ、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 無理に吐かせないこと。
予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 応急措置をする者の措置	<ul style="list-style-type: none"> 吸入した場合：咳 眼に入った場合：発赤 適切な保護具（保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面）を着用すること。 適切な換気を行うこと。

5. 火災時の措置

消火剤	<ul style="list-style-type: none"> 粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂、噴霧上の水
使ってはならない消火剤	<ul style="list-style-type: none"> 棒状水
特有の危険有害性 特定の消火方法	<ul style="list-style-type: none"> 火災によっては刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれ 危険なく出来るときは、液体を除去し、周囲の可燃物を除去する。 初期の火災には粉末、二酸化炭素、乾燥砂を用いる。棒状水の使用は火災を拡大し、危険な場合がある。消火は風上から行う。 大規模火災のときは、泡を使用して空気を遮断すると有効である。
消火を行う者の保護	<ul style="list-style-type: none"> 自給式呼吸器、保護衣服等の保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	<ul style="list-style-type: none"> 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。 漏出時の処理を行う際には、必ず保護手袋、保護眼鏡、自給式呼吸器等を着用する。 屋内の場合は、処理が終わるまで十分に換気を行う。
環境に対する注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 排水溝に流さない。流出した製品が河川等に排出され、環境への悪影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<ul style="list-style-type: none"> 大量漏洩時には、出来るだけ液体を空容器に回収する。この際着火源となるバキュームポンプを使用してはならない。 回収後の少量残留分に対して、または少量漏洩時には中和剤で中和、或いは白土、おが屑に吸着させて回収し、アンモニア水、または水と反応させ固化させた後、焼却または埋め立て処分とする。 こぼれた場所を十分に水洗する。但し汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
二次災害の防止策	<ul style="list-style-type: none"> 付近の着火源となるものを取り除くとともに消化剤を準備する。火花を発生しない防爆型の安全な機器及び用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策 接触回避 保管 安全な保管条件 避けるべき保管条件 安全な容器包装材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物取扱所で取り扱う。 ・ 作業場の換気を十分に行う。屋内の取扱場所には、局所排気装置を設置する。 ・ 静電気対策のために、装置、機器等の設置を確実にを行う。 ・ 電気機器、換気装置、照明機器等は防爆型を用いる。 ・ 飲み込んだり、吸入したり、眼、皮膚などに触れないように、取扱中は、適切な保護具（保護メガネ、ゴム手袋、マスク等）を着用し直接の接触を防ぐ。 ・ 容器の取り扱いは、転倒・落下に注意する。火気厳禁。 ・ 本製品と反応するイソシアネートや強酸化剤との接触は避ける。 ・ 危険物貯蔵所で密栓保管する。 ・ 一度開栓した容器は、窒素または乾燥空気（露点-30℃以下）で気相部を置換し密栓保管する。 ・ 屋内貯蔵所は防火構造で十分換気できるようにする。また、床材は非吸収性の材料とする。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。 ・ 火気厳禁・関係者以外立入禁止の標識を掲示する。 ・ 直射日光下および高温になる場所に放置しないこと。 ・ 危険物対応の容器
---	--

8. 暴露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
ポリブタジエンポリオール	設定されていない	設定されていない	設定されていない
ヒマシ油系ポリオール	設定されていない	設定されていない	設定されていない
芳香族ポリオール	設定されていない	設定されていない	設定されていない
合成ゼオライト	設定されていない	設定されていない	設定されていない
炭酸カルシウム	設定されていない	設定されていない	TWA 10mg/m ³
酸化チタン	設定されていない	0.3mg/m ³	TWA 10mg/m ³

暴露防止、設備対策 保護具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り扱い作業場所には、局所排気装置を設置する。 ・ 機器類は防爆構造とし、設備は静電除去対策を実施する。 ・ 取り扱い設備は密閉構造とする。 ・ 取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する ・ 呼吸器保護具 : 自給式呼吸器、有機ガス用防毒マスク ・ 手の保護具 : 耐油性保護手袋 ・ 眼の保護具 : ゴーグル、保護眼鏡、防災面等 ・ 皮膚及び身体の保護具 : 耐油性保護衣服、耐油性保護長靴等
----------------------	--

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 色 臭い 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸点範囲 可燃性 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 引火点 自然発火点 分解温度 pH 粘度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 液状 ・ 白 ・ 特異臭 ・ データなし ・ データなし ・ データなし ・ データなし ・ 230℃以上 ・ データなし ・ データなし ・ データなし ・ ペースト状 (25℃)
---	--

溶解度	・非水溶性 芳香族炭化水素類、エステル類、ケトン類に可溶。
n-オクタノール/水分配係数	・データなし
蒸気圧	・データなし
密度	・1.35 (25℃)
相対ガス密度	・データなし
粒子特性	・データなし

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	・通常の取扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	・データなし
避けるべき条件	・炎、火花、加熱、高温、直射日光、静電放電など。
混触危険物質	・強酸、酸化剤。
危険有害分解生成物	・燃焼で一酸化炭素、NO _x など。

11. 有害性情報

急性毒性	
急性毒性（経口）	・ GHS分類基準により区分に該当しない。
皮膚腐食性／刺激性	・ ポリブタジエンポリオールやヒマシ油系ポリオールは高温になると皮膚への刺激性が強くなるが通常の見扱いにおいて有害性は殆どない。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	・ ポリブタジエンポリオールやヒマシ油系ポリオールは高温になると皮膚への刺激性が強くなるが通常の見扱いにおいて有害性は殆どない。
発がん性	・ 酸化チタンの情報より区分2とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	・ 合成ゼオライトの職業ばく露により肺に繊維症が認められたとの報告があるこの記述より区分1とした。

12. 環境影響情報

生態毒性	・データなし
残留性・分解性	・データなし
生体蓄積性	・データなし
土壤中の移動性	・データなし
オゾン層への有害性	・データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	国/地方の規則に従って廃棄すること。
汚染容器及び包装	国/都道府県などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に依頼する。 国/地方の規則に従って廃棄すること。 国/都道府県などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に依頼する。

14. 輸送上の注意

国内規制	
陸上輸送	・ 消防法に従った容器、積載方法により輸送する。
海上送	・ 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	・ 航空法に定められている運送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	・ 運送に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

15. 適用法令

消防法	・ 危険物第4類第4石油類危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	
表示および通知物質	・ 酸化チタン ・ 合成ゼオライト（令和7年4月1日から）
化学物質管理促進法	・ 非該当

16. その他情報

引用文献

- ・ポリウレタン原料について－安全取扱の手引（2014）
- ・日本産業衛生学会「許容濃度等の勧告」（2023）
- ・化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS） 改訂9版（2021年）
- ・公表GHS分類結果 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)
- ・事業者向けGHS分類ガイダンス（令和元年度改訂版Ver 2.0）
- ・J I S Z 7 2 5 3 : 2019
- ・J I S Z 7 2 5 2 : 2019

本安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改定されることがあります。またSDS中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。

本安全データシート（SDS）記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってくださる様、お願い致します。